

会 議 録

日 時	令和2年2月13日(木) 10:00~11:00	場 所	消防本部「大会議室」
会 議 名	令和元年度 第2回 由利本荘市地域公共交通活性化再生協議会		
出 席 者	委 員:(委員35名中)23名出席 ※代理出席含む 随行者:羽後交通(株)(2) 事務局:地域振興課(3)、各総合支所振興課担当者(7) ※詳細は別紙のとおり		
案 件 及 び 会 議 要 旨			
1 開 会			
2 あいさつ	会長 由利本荘市長 長谷部 誠		
3 報告事項	報告第1号 由利高原鉄道(株)第36期実績報告(令和元年度)並びに 令和元年度由利本荘市コミュニティバス等運行実績報告について 報告第2号 本協議会「モビリティマネジメント事業」の開催状況について		
4 議 事	議案第1号 乗り[逢い]交通事業の実施について(由利地域小菅野集落) 議案第2号 大内地区「高尾線」の路線変更について 議案第3号 由利高原鉄道生活交通改善事業(令和元年度補正予算)について 議案第4号 由利本荘市地域公共交通網形成計画の実施事業等の検証について 議案第5号 由利本荘市地域公共交通網形成計画(第二次)(案)について		
	※ 全議案とも原案のまま「承認」		
5 その他			
6 閉 会			
	※ 裏面に質疑等を記載		

<議案に関する質疑応答等の要旨>

■ 「報告第2号」本協議会「モビリティマネジメント事業」の開催状況について

○ 秋田県交通政策課 副主幹 吉尾委員（代理）

- ・このような取り組みは非常に大切だと考えている。県内でも全域で実施できているわけではなく、由利本荘市のように積極的に取り組んでいることは重要である。

「主な意見」の3つ目にある「免許返納したらバスに乗るのが難しいのが分かった」とあるが、これはどのような流れでこのような意見が出たのか教えて欲しい。

⇒事務局（伊藤）

モビリティマネジメント事業を行う上で、説明の時間の長短はあるものの、必ずお伝えしていることがあり、それは、「運転出来なくなったらバスに乗る」というお話をよく聞くが、その段階でいきなり乗ろうとしても、どこを走っているのか、どこに行くのか分からなかったり、ダイヤを調べることができなかったりということで乗れないことが多い。よって、元気なうちに月に1度でもいいので練習として乗っておくことが必要であるとお伝えしている。

この意見は、その説明に対して理解していただいたことからのものである。

■ 「議案第1号」乗り[逢い]交通事業の実施について（由利地域小菅野集落）

○ 小菅野集落の安全と生活を守る会 会長 渡部完治

※事業に取り組むにあたり会長としての気持ちなどをお話しいただいた

- ・小菅野集落は、前郷から4キロほど離れた山間部にある。私の生まれは羽後町のさらに山間部であった。小菅野にきたときには、さほど不便さなどは感じなかったが、最近は高齢化に伴う自動車事故が毎日のように報道されている。小菅野集落でも集落会館の玄関に誤って車が突っ込みめちゃくちゃに壊れるということが起き、これは都会での出来事ではなく、ここでも現実的に起こり得る大変な事態だなと感じていた。

集落内で同じような年代の人達が集まりお酒を飲んでいると、こういった送り迎えなどできたらいいなという話は前々からあった。しかし、いざドライバーを確保したりとなると要領を得ず実現までに1年ほどかかったが、今回は、市のサポートもあり「これは実現できるのでは」と思うことができた。

これは、ボランティアでの取り組みなので、金もうけなどと言う気持ちはなく、自分がそういった年齢になったら助けてもらえるような、そして、若い年代の方々や子供たちも、この集落ではこういったよいことを行っているということを誇りに思えるような取り組みにしたいと考えている。

～事務局より運行概要を説明～

（異議なし「承認」）

■ 「議案第4号」由利本荘市地域公共交通網形成計画の実施事業等の検証について

○ 秋田県交通政策課 副主幹 吉尾委員（代理）

- ・施策3の事業9で行ったコミバス「子吉線」のスタンプカードについて、どれくらいの利用があったか教えていただきたい。

⇒事務局（伊藤）

この取り組みは、ポイントの還元に関わる負担は、全てグランマート側でもっていただいた。したがって、あまり大掛かりは取り組みはできず子吉線に限ったものとしたが、6月以降50枚準備したうち32件（枚）の利用がある。

■ 「議案第5号」由利本荘市地域公共交通網形成計画（第二次）（案）について

○ 羽後交通（株） 井上委員（代理）

- ・鳥海山ろく線の通学定期券の補助制度が事業として挙げられているが、特定の路線等に限ったものではなく、全地域の路線バスの通学定期も補助対象としていただくことで、定期収入が増えたり、国や県の補助対象路線となり、市からの赤字補填が減少するということが想定されますので、是非、ご検討いただきたい。 ※ 要望として

（異議なし「承認」）

■ 次第5 その他

○ 秋田運輸支局 保坂委員（代理）

- ・乗り[逢い]交通事業について、貸し出す車両が軽自動車になっているが、安全面を考慮すると普通自動車の方がよいのではと思うが。

⇒事務局（伊藤）

今回は、1集落の狭い範囲が対象となる運行であり、乗車する人数などを考慮して軽自動車とした。導入予定の車両は、衝突安全ブレーキやバックビューモニターなど安全面に配慮したオプションを充実させた車両となっている。今回の試験運行を考慮して乗車人員や安全面の不具合などを検証して車両の大きさを検討していきたいと考えている。

○ 事務局より連絡事項

- ・今後、3月に鉄道関係で書面協議を行う可能性があるので、その際には通知する。
- ・4月以降、循環バスでTDKと共同したバスロケーションシステムの実証実験を行う予定である。
- ・循環バスの青バスの車両を赤バスと同様のポンチョに更新するにあたり、ジオパーク関連のラッピングにする予定である。これまででない、キャラクター入りのラッピングになる予定なので、是非ご乗車ください。